

その他の省力化技術

ドローンを活用したジャンボタニシ防除

作業時間調査結果

ドローン防除と背負い式動散の作業時間を調査しました。
比較するとドローン防除は省力と時間短縮が可能となっています。

	総作業時間	実作業時間		準備作業等		
		散布	離着陸	薬剤補充	その他	
動噴散布(分/10a)	3.9	3.1	0.0	0.8	0.2	0.6
ドローン防除(分/10a)	2.0	1.3	0.1	0.7	0.3	0.4

- ・動噴防除では、10a 約3.9分で作業可能。
- ・ドローン防除では10a 約2分で作業可能。
- ・ドローン防除では、動噴防除より作業時間が2分の1に削減可能。



ドローン防除の様子

今回調査で使用した薬剤「スクミンベイト3」は食害防止効果のある燐酸第二鉄を含んでいます。
自然由来の成分なので、有機JAS対応の薬剤です。



箱処理剤の活用

育苗箱に農薬をまくことで、いもち病等の病害や害虫を防除できる農薬です。
これまで水田にて背負動噴等で散布していた手間をなくすことができる省力化資材です。



▶今年度 Dr. オリゼフェルテラ粒剤を箱施用した苗を植付したほ場。
達観調査でいもち病の発生は見られなかった。

※参考 資材例
Dr. オリゼフェルテラ 1kg
箱処理殺虫・殺菌剤 いもち病・イネドロオウムシをシャットアウト



葉いもち病を抑え、穂いもち病を予防！
抵抗性イネドロオウムシにも高い効果があり、ツマグロヨコバイやチョウ目害虫にも長期残効。直播栽培でも播主時処理（土中施用）が可能です。

農薬登録
(移植水稻) 緑化期〜移植当日 50g/1箱当り
(直播) 播種時 1kg/10a

これらの省力化技術もご検討ください！！